



トランスディスプリナリー教育の推進—新しい高等教育

複雑に絡みあう地球規模課題に対して、
問題に関わるステークホルダーが協力し合える仕組みが必要だ。
そのために新たに発足したグローバルなプラットフォーム、
「トランスディスプリナリー型教育のための国際ネットワーク」が果たす役割とは——。

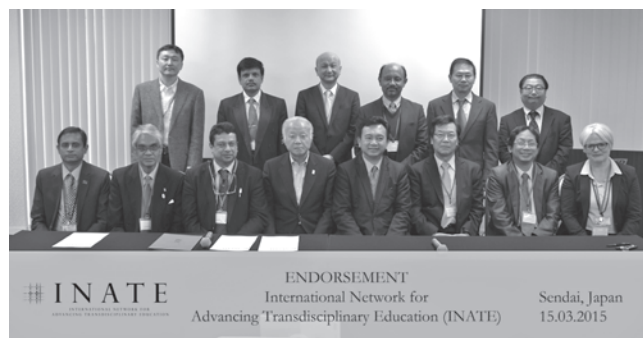
文：国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS） プログラムアソシエイト 毛利 英之／学術部長 スリカンタ・ヘーラト

この数十年の間に、人々は科学、技術、情報など多くの分野で目覚ましい発展を遂げてきた。しかしながら、差し迫った社会問題に対して、多くの場面で我々の能力では解決に至っていない。気候変動や人口増加などの地球規模の変化は、昨今の諸問題をさらに複雑化させており、こうした変化への適応は容易ではない。地球規模課題に対して、専門分野を超えて、学術、地方自治体、民間セクター、NGO、地域コミュニティなど多様なステークホルダーが共同で課題に取り組むことが重要となる。トランスディスプリナリー（超学際的）なアプローチは、多様なステークホルダー間で知識や経験の共有することにより、より迅速に持続可能な解決策を生み出すことができる。「トランスディスプリナリー型教育のための国際ネットワーク（INATE）」では、このような新しい形の教育やトレーニングを通して、トランスディスプリナリーアクションを推進することを目的としている。

INATEは2014年10月に国連大学で開催した国際会議「災害リスク管理のためのトランスディスプリナリー型教育（TeDRR）」における議論をもとに発足した国際プラットフォームである。当ネットワークは2015年3月15日に第3回国連世界防災会議（WCDRR）にて正式に設立し、同年7月にオーストラリア国立大学（ANU）にて、「知識から実践へ」をテーマに第1回INATE国際会議を開催した。

INATE パイロットプロジェクト

スリランカ北部は長年続いた内紛が2009年に終結し、人々が土地に戻り始め、現在ようやく復興も進んできている。しかし、乾燥地域である故に、最大の課題である水の



INATE は WCDRR（仙台）で正式に設立された。

安定供給に対して表面水だけでは生活用水や、農業を中心とした地域の水需要を満たすには十分でなく、抜本的な水管理のあり方を考える必要がある。INATEスリランカプロジェクトでは、スリランカ環境省、灌漑局、マハウェリ局、ペラデニア大学など研究機関、企業、現地コミュニティと共同で問題提起を行い、プロジェクト計画を策定した。それらの各ステークホルダーと協力して地下水の活用を含む統合的な水管理による気候変動や生態系変動に対してレジリエントな地域づくりを目指す。2015年8月には正式発足し現地調査などを開始している。

今後の展開

トランスディスプリナリー型のアプローチには、地域的なネットワークの構築に加え、国際的なネットワークや枠組が重要となる。こうした地域、専門分野、セクター間をつなげる役割として、大学や研究機関が重要な役割を担う。INATEの基盤となっている「気候・生態系変動適応のための大学ネットワーク（UN-CECAR）」は、気候変動や生態系変動への適応に関する教育と研究を目的として、20以上のアジア各国の主要大学から構成されており、2009年の設立以来、高等教育プログラムの提供や、さまざまな共同研究を開発・実施してきた。この高等教育ネットワークは、INATEのトランスディスプリナリー型プログラムの効果的かつ効率的な開発と推進に貢献している。INATEはインキュベーターとして現在さまざまなトランスディスプリナリープロジェクトの開発を行っている。今後、気候変動など極めて複雑な問題に対して、さまざまな人や機関と連携し、知識を結集することで、持続可能な社会と地域の構築を目指す。

毛利 英之（もうり ひでゆき）

国際連合大学サステナビリティ高等研究所 プログラムアソシエイト。研究員・調整員として気候・生態系変動適応のための大学ネットワーク（UN-CECAR）を中心に、適応科学教育・研究に従事。

スリカンタ・ヘーラト

国際連合大学サステナビリティ高等研究所 学術部長。水の専門家。気候変動適応策、統合的水循環管理、災害リスク軽減など研究分野は多岐に渡る。